

令和4年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」実施報告書(3)

第3回「これからの森の再生」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」 第3回「これからの森の再生」 講義：「都市部の樹林地の特徴」 甚左衛門の森 講師：ちば里山センター理事高木喜久雄氏 講義：「東葛地域の森の特徴」 講師：千葉県里山林保全整備推進地域協議会 遠藤 良太氏 実習・視察「小浜屋敷の森、甚左衛門の森」 講師：小浜の森の会 横山 元氏、甚左衛門の森 岩下 正光氏 森のある地域について：高塚新田の今、昔 担当：ちば里山センター 藤田 隆 氏 講義：森林における更新について 講師：千葉県里山林保全整備推進地域協議会 遠藤良太氏 グループワーク：次世代に引き継ぐ森づくり 講師：千葉県里山林保全整備推進地域協議会 遠藤良太氏
日時	令和4年9月4日(日) 10:00~16:00
会場	甚左衛門の森・小浜屋敷の森、向新橋青年館(松戸市)
出席者	受講生21名(13市・1区)・講師5名 スタッフ1名
内容	10:00~10:20 講義：「都市部の樹林地の特徴」 甚左衛門の森 講師：ちば里山センター 理事 高木喜久雄氏 10:20~10:40 講義：「東葛地域の森の特徴」 講師：千葉県里山林保全整備推進地域協議会 遠藤良太氏 10:40~12:30 実習・視察「小浜屋敷の森、甚左衛門の森」 講師：小浜の森の会 横山 元氏、甚左衛門の森 岩下正光氏 (移動・昼食) 13:10~13:30 森のある地域について：高塚新田の今、昔 担当：ちば里山センター 藤田 隆 氏 13:30~14:30 講義：森林における更新について 講師：千葉県里山林保全整備推進地域協議会 遠藤良太氏 14:30~15:30 グループワーク：次世代に引き継ぐ森づくり 講師：千葉県里山林保全整備推進地域協議会 遠藤良太氏

実施概要

第3回ちば里山カレッジは、松戸市高塚新田甚左衛門の森、小浜屋敷の森を視察・見学し、長期的視野に立って、千葉県東葛地区の都市部における樹林地のあり方について、受講生それぞれが考え、意見を出し合い、確認するプログラムになった。

最初は、ちば里山センター高木理事が、都市部の樹林地の特徴を講義した。

都道府県の中で千葉県の森林率は45番目（林野庁発表の数字）。46番目は茨城県、47番目は大阪府で、千葉県の中で、東葛地域、松戸市は森林率が低く、浦安市、市川市について松戸市が3%台で3番目だ。わずかに残された市街地の樹林地を守る活動を行っている。

市街地の樹林地では、隣接する民家からの落ち葉、落枝に対する苦情処置が活動の主な部分を占めている。それでも樹林地、みどりの良さを理解してもらうため、毎年オープンフォレストを開催し、市民に呼びかけ、来森してもらい、一人でも多くの理解者を増やしたい思いで活動を続けている。

遠藤講師による講義は、「東葛地域の森の特徴」のタイトルで千葉県の森林の特徴を解説した。暖温帯と冷温帯の移行域に位置し、両方の要素が入り交じり、多様な植物相暖温帯性の常緑広葉樹、冷温帯性の落葉広葉樹、針葉樹が植物相を形成している。

寒冷期に低地に分布していた樹種がその後の温暖化に従って高所に移動したが、千葉の場合は房総丘陵で生き延び、温度の耐性を獲得したという森林の特徴を示した。

講義を受けて、2班に分かれて甚左衛門の森と小浜屋敷の森を見学した。ナラ枯れによるギャップが数か所見られ、カシノナガキクイムシによる被害の大きさが認識できたこと、スギが非赤枯性溝腐病によって被害を拡大している実態も視察した。被害にあった樹木は後々伐倒され、その後にできたギャップの更新について、それぞれの森で進めていくという説明だった。

小浜屋敷の森は落葉広葉樹が多く、甚左衛門の森は針葉樹が多かった。ナラ枯れ被害については小浜屋敷の森も甚左衛門の森においても伐倒処理が進んだところだが、さらに被害が拡大する傾向もみられ、さらに伐倒処理が必要だとする見解もあるようだ。

午後は向新橋青年館に会場を移し、藤田講師が甚左衛門の森、小浜屋敷の森がある高塚新田の特徴について解説した。明治時代の測量図によるとマツ、クヌギが植栽され、1950年代になるとコナラ、クヌギを薪炭材として植林していたが、エネルギー革命の影響を受けて樹林地が放置され荒廃してきた。同時に森林面積も年々減少している。

次に遠藤講師からナラ枯れ木伐倒によってできたギャップを使ってできることについて話を進めた。里山団体が行うギャップの利用と再生については団体内部での合意形成が必要とされ、再生する森のコンセプト決定、再生に用いる樹種、育成方法など決定までのプロセスを解説した。

その後、4つのグループに分かれ、里山活動での経験を持つ受講生からは、ギャップを利用して、さらに明るい森にデザインしたい。経験譚から間伐して木が元気になる様子が見られる。などの意見が出された。

森の利用として、植樹会を開き、親子で参加し次世代に引き継ぐなどのアイデアなどの発表があった。ギャップによってできた木漏れ日が直接当たる空間を利用してツリーハウス製作のアイデアについては、第2回で訪れたプレーパークの森の様子が生かされているように思えた。

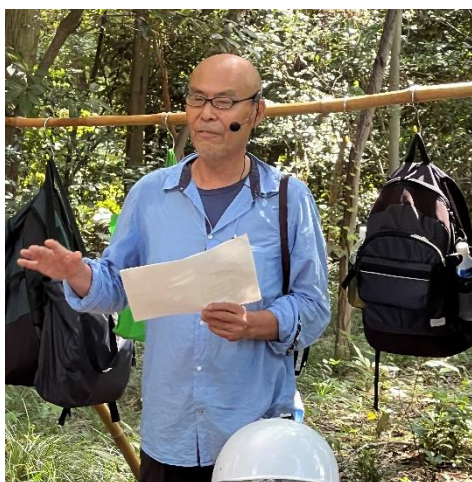
添付資料（写真）



横山講師（左）と岩下講師（右）



高木喜久雄講師



遠藤講師



甚左衛門の森の様子



小浜屋敷の森を視察



ギャップをバイオネストに（甚左衛門の森）



斜面とスギ林



森のオブジェを利用するという工夫



小浜の森入り口



午後の部 藤田氏の説明



午後の部 遠藤氏の講義



受講生の意見発表